

\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*-----\*

今 世界のスポーツ機関で、一定期間 SNS をボイコットしようとする運動が広がっているそうです。SNS とはフェイスブック・ツイッター・インスタグラムなどで、それを使っている人たちが世界中で何十億人もいてるんですね。

だからフェイスブックに、例えば“〇月〇日に試合があります”と打つと、その告知が何十億人に一瞬にしてブワッと広がる。しかも、それを打つのはタダですよ。

以前なら、何十億人に周知徹底しようと思ったら、広告費どれくらい払わなければならなかったか。それを考えたらムチャクチャ便利なんですけど、イギリスのサッカー界で、4月30日から5月3日までの4日間、SNS でゲームの告知、もう SNS は使わない。ピシャッとやめたんですね。

なぜやめたのかというと、フェイスブック/SNS を通して、プロの選手・コーチ・監督・チームに対する罵詈雑言がめっちゃくちゃ酷い。目を覆うような内容というか、人種差別・偏見のそういうものがある。特にある特定の選手がミスなんかしたら「お前、なんで生きてんねん」みたいな。

「そんなのは外野が言ってることだから、無視してたらいいんじゃないの？」と言うかもしれませんが、これで確実にパフォーマンスが落ちていることが分かってるんです。データで出てるんです。これはサッカーの世界だけではなく、世界テニス連盟もこれに同意して、この4日間 SNS を使いませんでした。

アメリカにレベッカ・マリーノという 非常に才能豊かな女子選手がいたんです。

大学時代からすごくいい成績で、「この人、絶対プロになるで。」 プロになりました。

才能豊かで、将来おそらく大スターになるんじゃないかと囑望されてたけれど、22 歳になった時に突然引退したんです。モツタイナイやん。伸びしろあんのに、なんでやめんの？

「SNS の誹謗中傷に、もうこれ以上耐えることができません。」 いわゆる悪口によって心が壊れて、最終的に精神的に不安定になって、選手生命を絶たれてしまったんです。

交通事故じゃないんですよ。SNS の批判の言葉によってズタズタにされたんです。

これは外国だけじゃないですよ。日本の女子サッカー なでしこジャパンのゴールキーパーの1人 山根恵里奈（やまね えりな）さん。ゴールキーパーは、脂が乗ってくるというのは30代に入ってからなんですけど、29歳で突然やめてます。

これから伸び盛りだろうと言われていたにもかかわらず、30歳を前に、「何か自分はチームを遠くから見てるなあ。やって行こうという気持ちが失せてるなあ。闘争心なくなったなあ。あ、やめてもいいんやー」ということで、“引退”という言葉の口にした途端にホッとしたと。

なぜホッとしたかということ、現役の間、ずーっと得体の知れないものと闘って来た。

もうこれからは、その闘いをしなくてもいいんだと思ったらホッとした。

その得体の知れないものとは何か？ SNS です。マスコミです。悪口です。  
批判の中には正当なものもあるけど、それに混じって酷いのがたくさんあって。

彼女は身長が 188 センチ。女性で 1m90 近いんですよ。サッカーの世界もフィジカルがものを言いますから、日本人の体格は欧米と比べると小柄というか、サイズが一回りも二回りも小さい。

「1m90 近い女子サッカーのゴールキーパーがいたら、日本のサッカー変わるぞ」と佐々木監督に口説かれて、それまでディフェンスだったのをゴールキーパーに変更。

これからは日本のサッカーも 欧米とフィジカルで対等に渡り合っていけるんだ、というランドマークみたいにされて、ものすごい注目を浴びたのです。

注目を浴びるということは期待が高まるということです。期待が高まれば高まるほど、その期待を裏切った時、例えば、試合で守れなかった・ミスした・得点が入って、それが致命傷となって日本が負けた…そうってしまった時、まあ、ヒドイ言葉の攻撃。1 番グサッと来たのは“動けない大巨人”。なんで、そこまで言われたいいけないんだろう。

いつの間にか自分自身が、体がでかいということに恨むようになったんです。

そして、「絶対ミスしたらアカン。絶対しくじったらアカン。絶対ゴールを守り切らないと駄目だ。零点を守り抜くんだ！」と緊張すればするほど、いい動きをすることができなくなります。

ますます本来の彼女のプレーができなくなってポカをやり、2016 年のリオ オリンピック、なでしこジャパンは出場資格を取ることができなかった。

その時、“ゴールキーパーが悪い！”“ちゃんと守れ！”“下手くそ！”“お前、ようそれで生きてるな！”

あまりにも酷い SNS の悪口に耐えかねて、彼女は日本を脱出したんです。心機一転、海外のチームでプレーして、もう 1 度一からやり直してみようと。

スペインのチームがプロ契約を結んでくれたのですが、そこにメンタルコーチがいました。

スポーツって、体だけでやるスポーツはないんです。メンタルによって体の動きがすごく支配されるんですよ。それで、専属のメンタル心理士がいてる。

スポーツ選手のメンタルをケアする専門家がちゃんとチームにいて、月に何回かメンタルを考える会があるんです。彼女はそれにアクティビティに参加したんです。

自分が思っていることを何でも言っている。なので、正直な気持ちを打ち明けました。

「私は選手としては良い選手じゃないと思う。」

そう言った時、メンタルコーチだけではなく、その場にいた全チームメンバーがドン引き。そして総攻撃というか、もう「はあ〜?!」みたいな。「はあ〜？ ナニ言ってるの？ あんた、なでしこジャパンのメンバーやってんやろ。日本代表でしょ。選手として良くない人が日本代表になれるん？」

「ところで、なでしこジャパンのゴールキーパー、何人いてんの？」「3 人。」

「ということは、あなた 日本のトップスリーじゃん。その 3 人の中で、海外のプロチームと契約してるの何人？」「私だけ。」「それって、オンリーワンやん。」

だけど、なんぼそういうことをチームメイトから言ってもらっても「私 ダメです。私 ダメです。」

ある時、スタメンから外されたんですね。その理由を聞くために監督を呼び止めました。

「監督、なんで私 外されたんでしょう？」そしたら監督が「あなたは自分を傷つけ過ぎている。」

「は？」いや、今そんなこと聞いてない。なんでチームのスタメンから外れたんですか？ということを探ねてるんですね。ところが、何回言っても、監督は「あなたは自分を傷つけ過ぎている。」

やがて日本に帰って来た時、監督が言った意味が分かったんですね。

心が壊れていると体が壊れるんです。心がズタズタになっていると、肉体のパフォーマンスもギクシヤクして、ほんまやったらあつたりまえに出来ることが、ガッチガチになって出来なくなる。

「あなたの問題はメンタルの問題。」そうか〜。私はこれでいいんだ。

そう思った時、その闘いに勝った！と思ったそうです。

スポーツ選手は、例えば、テニスの選手は色々な国の大会を転戦します。試合に負けます。

落胆してます。落胆しているけど、自分で国際線の航空便予約取るためにスマホを触ります。

その時、チロリロリンと着信音が響いて開いたら、“お前、ロクなことせえへんな。はよ、さっさと引退しろ”みたいなことがバーッと出て来る。

プロになれるって一握りの人たちでしょ。才能がなかったらなれない。でも、そんな人たちでも、言葉の暴力で心がズタズタになると立っていることができなくなるんですね。

皆さん、いかがですか？ 今まで他人（ひと）が言った言葉で傷ついたことがないという方、いらっしやいますか？ と同時に、今まで他人を傷つけるような言葉を1回も言ったことがないという方、いらっしやいますか？

今日お話ししたいのは、罪に満ちているこの世界の中で、潰されない生き方をするためにはどうしたらいいかということです。

先週ゴールデンウィークでしたね。私は40年近く、5月のゴールデンウィークには大阪にいないんです。バイブルセミナーといって、2泊3日くらいのスケジュールで、リフレッシュと聖書メッセージを聞く集いの講師ということで、色々な所にお招きを受けることが多いんです。

ゴールデンウィークや夏休みのセミナーの会場は、十中八九 田舎なんですね。都会を出て、空気が良くて景色の良い田舎に行きます。

そして、宿泊施設に泊まって必ずすることがあります。夜中に散歩するんです。

昼散歩したら、人と会うじゃないですか。ちょっと1人で考え事したいからね。話しかけられたら、話し長くなるじゃないですか。1人で散歩したい。それで夜中に散歩するのが、どこかに出かけた時の私の日課なんです。

地方に行った時の夜中は都会の夜空と全然違う。見える星の数が違う。星って、こんなにたくさん瞬いていたんか！こんなにたくさんあったんか！ほんとに美しいですね。たくさんありますね。

たくさんあるけど、昼間は全然見えないでしょ。昼間は星が出てないのではありません。

昼間も夜と同じだけ出てるんです。でも、星よりもはるかに豊かな光量を持っている太陽の光のまぶしさに、弱々しい星の光がかき消されて、結局見えなくなってるんです。

悪口が横行する・人の批判をする言葉が横行する・人の心をズタズタにするようなものが横行するこの世の中で、潰されないようにする秘訣って何なのかなと考えたら、これちゃうかなと。つまり、人間が語っている言葉が消し飛んでしまうような、もっと権威ある・肯定的で・前向きで・建設的な・いのちの言葉に触れることです。SNS なんか見ないで、バイブルに聞くということです。

もし私たちの心を占領しているものが、人の噂話・陰口・悪口など、そんなものじゃなくて、あなたを造られた神の言葉とするなら、人生の向かい方がまるで変わって来る。潰されない生き方の秘訣、それは、いのちの言葉を自分の心の中に持つことです。神の言葉は生きていて、私たちを内側から立て直してくれます。崩れたものを再建し、傷ついたものを癒し、そして、前に向かって進ませてくださる言葉です。特に、それを福音と言うんですね。

そこで今日は、福音に生きた1人の人物の言葉の中から、潰されない生き方の秘訣を3つばかり考えたいと思います。コリント人への手紙第二 12 章 9 節。

9. しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

これは、パウロという人が、コリントという所の教会/クリスチャンたちに向かって語った言葉です。

ところで、ある方がこんなことを書いておられました。

「どうしても耳を貸してくれない人を振り向かせたい時は、このように言ってみるといいかもしれない。『今から話すことは、君だけに話す秘密の話なんだ。』」

人間って、秘密に弱いだよ。“ここだけの話”とか“あなただけが知ってる。”“みーんな知らないんだけど、あなたにだけ教えるわね。” そんな耳より情報を聞くと“えっ、なにになに?”

“そんな秘密、みんな知らないで私だけが知れるというのなら、聞くだけでも聞いてみようかな”ということで、耳を貸すかもしれませんね。みたいなことが書いてありました。

第2コリント 12 章は、パウロが14年間 秘密にして来た秘密を打ち明けている箇所なんです。

「14 年前に私が経験した超自然的な凄い体験。他の教会どこも知らない。みんな知らない。自分の仲間も知らない。この秘密をあなたたちにだけ、まず打ち明けましょう。」

皆「なにになに? なんなん? なんなん?」 心開いたんですね。

第2コリント人への手紙は秘密を打ち明けると言いましたが、その秘密の話の結論の部分が先ほど読んだところです。イエス・キリストがパウロに秘密裏に語られた言葉。

わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの恵みは弱さのうちに現れる。

今日は 12 章 9 節の御言葉の中から、潰されない人生に至るための3つのポイントをご一緒に考えたいと思います。

### 1) 自分のアイデンティティーを自分の造り主としっかり繋ぐ。

「わたしの恵みはあなたに十分である。」恵みとは、神様の一方的な無条件の愛のことです。

パウロは自分のことをこう考えたんですね。

“このパウロという人間は、ひと言で言うならば、神の一方的な愛が少しだけではなく十分に注がれ続けている人間である。私は神によって、満ち満ちた豊かさでたっぷりと神の恵みを受け、神に愛されている者だ”というアイデンティティーを持っていたんです。

パウロもいっぱい悪口を言われた人でね。

彼も人間やから、何にも感じなかったということはないと思いますよ。

でも、彼の1番深いところにあるアイデンティティーは、“神は、もうこれ以上与えるものはないくらいに大きな大きな愛で私を愛し、私に恵みを注いでいる。神の恵みは私に十分に注がれている。神の恵みがドーンと津波のように私に押し寄せて来ている。そんな人物が私なんだ。”

神様は全ての人に恵み深い方です。神様はあなたにも十分な恵みで臨んでおられる方です。

たとえ、他人のあなたに対する評価が最低最悪であったとしても、神様の恵みや愛は、あなたから削られたり減ったりすることはないんです。

しかし、あなたを愛する神様は存在しないという世界観であるならば、他人の言葉が自分の世界観の土台になってしまうんですね。

ユダヤ人哲学者サルトル（1905-1980）は無神論実存哲学者とされています。

彼について、いつか詳しくやる機会があったらなと思うんですが。

彼は戯曲・劇の脚本を書いている、その中に『出口なし』という作品があります。

3人の悪人が死ぬんです。死んであの世に行きます。あの世ってどんな所なのか。

死後の世界ってどんな所なのか。無神論の彼が描く死後の世界はどんな所なのか。

出口がない部屋なんです。1度入ったら、出口がもうないんです。

出口のない部屋に3人の悪者・罪人が入っている。

その部屋には、ない物がもう1つあります。鏡です。

鏡がないので、自分の姿が今どうなっているのかを知る術がないんです。

3人とも自分のことだけに興味がある。自分のことしか考えない人たち。死んだ後、自分が今どんな姿になっているのか知りたくて仕方がないけど、うっすらとでも映す物が何もない。

今日 この会場に誰もいないんですけど、ここに（\*講師の前に）アクリル板があるんです。

このアクリル板に、ぼんやりと私の姿が映ってるんですよ。

私の姿の前に白い点々がいっぱいあって、これ 私の飛沫なんです。飛沫。（\*布でアクリル板を拭く）

そんな物もない。今の自分がどんな姿をしているのか、自分で自分を確認することができない。

確認するための唯一の方法は、自分以外の2人の悪者に、“俺はどんな姿か”を聞くことなんです。ところが、3人とも心が傷ついてひねくれてるんですね。なので、「俺ってどんな風に見える？」と聞いた時、めちゃくちゃ辛辣なことを言うんです。“ガーン！”もう1人に「えっ、ホントにそうなのか？」と聞いたら「いや、もっとヒドイよ。」

今度は、自分に辛辣なことを言った人が自分に聞くんです。「ところで、俺は今どんな姿してる？」今さっきヒドイこと言われましたよね。仕返ししたる！自分が言われたよりもっとヒドイ言葉で「お前 醜いぞ。ひどいな。バケモンかよ。」こうして3人は3人とも、自分以外の2人のおぞましい人物評を聞いて気が狂わんばかり。これが延々と続くんですね。

私は劇で見たことはないのですが、文章で読んだことがあります。読んだ人は誰もが、「そんな批判に耳を貸す必要ないぞ！/そんな意見 全然根も葉もない、根拠ないことだから聞くことないぞ！/そんなひねくれた奴に、あなたの人物評なんかさせることないぞ！」と言いたくなる。だけど、それを止めることができない。それを聞いているうちに、ますます自分の心が歪んで醜くなり、相手にもっと酷い言葉を返すようになっていくんですね。

サルトルはこう言うんです。「地獄とは何か？ 他人である。他人とは地獄である。地獄とは他人である。他人が言った言葉で酷くなかった言葉、屈折してないものってあるのか?!」彼はユダヤ人で迫害されて。気が狂ったフリをしながら、レジスタンスの中をずっと逃れて行ったんですよ。この世の中で散々な目に遭って、「神も何もあるもんか！」と言って、もう無神論。無神論なんですけど、亡くなる数週間前に神を受け入れたんです。それはまた今度のときにします。

とにかく、「そんな奴らの悪口に基いて自分の存在価値を決めなくてもいいぞ！」と言いたくなるのですが、自分自身の存在を正しく評価し、“私とはいったい何者か”ということの評価してくださる神が無い世界では、やっぱり人間に聞く以外ないんです。なので、人が神になります。世の中/世間が偶像になるんです。死ななくても、この程度の地獄なんて、今すぐありますよね。

パウロの悪口を言う人たちはユダヤ人の中にもたくさんいた。教会の中からも偽使徒たちが出て来ていっぱい悪口を言う。行く所行く所で、散々な悪評を受けたり、好評を博したりするのですが、彼も人間だから、全く気にも留めなかったということはないと思います。

しかし、そんな言葉が相対的なものにすぎず、彼の心を決定的に潰すことがなかったのはなぜか？彼の心の深一いところで、“私は、神が恵みを十分に注ぎ続けている人間である。”“私は神に絶対的に愛されている存在なのだ。”このアイデンティティーを確立させていたからだと思います。

神はあなたを愛しておられます。世間があなたのことを何と言おうが、神はあなたの味方なんです。そして、あなたが創造主のもとに立ち返って来ることを待っておられるんですね。

どうすれば、潰されない生き方ができるのか。

## 2) 最善以下を絶対になさらない方として神の主権を認める。

最善のみをなさる神と信仰によって結びつく、ということなんですね。

今日は9節しか開けてないのですが、1節～8節でパウロは病気になるんです。

“私を打つためのサタンの使いによって、私の肉体にとげが与えられた。”

肉体のとげ・病気・苦痛・痛みがどんな病名なのかは、具体的に書いてないから分からない。

でも、それは彼に大きな制限を与えるもので、苦しむんですね。それで、回復するために努力します。

病人が良くなろうと努めることは、とてもいいことなんです。もし患者本人が治ろうとする意思を捨てて、投げやりな治療態度で不真面目なことをやっていたら、治るもんも治りません。

だから病気になった時、患者さん自身が“何とか良くなろう。良くなるぞ”と前向きな気持ちで立ち向かって行くのは、治療を非常に効果的にするから良いことなんです。

パウロも肉体のとげが与えられた時、3度も祈ったと書いてあります。

ヘブライ的な表現で“3度も”は、文字通り3回というのがありますが、“たくさん”というニュアンスもあるんです。“何度も祈った”という意味も込められているでしょう。

病気やったら、誰かて祈るがな。いやいや、パウロには癒しの賜物が与えられていたんですね。

だから、彼が祈ると不治の病の人が癒された。死人を生き返らせたことすらあるんですよ。

ところが、他の人はキリストの力で、聖霊の力によって癒すことができたのに、自分の病気はなんぼ祈っても治らないのよ。

癒されなかった時、普通はどう解釈するか？

1 つ目の解釈；神には治す力なんか無いという不信仰。神なんか そもそもいてない。神なんかおらん。いたとしても、神には治す力が無い。

2 つ目の解釈；神には治す力があるけど、神は私が嫌いになって見捨てた。神には治す力があるけど、私が不信仰で信じ切れてないからあかんのや。自分を責める態度。

神を責めるか自分を責めるか。パウロはどちらの態度も取らなかったんです。

神は癒すことができる。そして私は信頼している。にもかかわらず、癒されないということもあり得るんです。その時、“神には癒す力が無い”とか“神は私を見捨てた”とかではなく、“神は私の考えをはるかに超えて、病気が治ることよりも もっと偉大なことをもたらすために これを許されているのだ”と、あくまでも神の主権を認めて、“神は良い方だから良いことしかなさらないのだ。”

神は良い方です。良い方は良いことしかしません。

“私の理解を起点にするなら、これは良いことに見えない。だけど、神は私の有限な知恵をはるかに超えて、もっと深遠な偉大な目的を達成するために この病を用いておられるのだ”と神を信頼したんですね。

アメリカの作家マーク・トウェイン（1835-1910）の本の中に、こんな一節があります。

「私が 14 歳の時、親父と来た日にゃ、無知な男で愚か者で、側にいるだけでムカつくような男だった。ところが私が 21 歳になった時、たった 7 年間で、あのクソ親父が驚くほど進歩し成長しているのを見て、舌を巻かずにおれなかった。」

マーク・トウェインは皮肉家なんです。すごくシニカル。皮肉の文章書かせたら天下一品。性格が皮肉の人だから。

これは何を言っているかという、世間のことも分からない 14 歳 反抗期真っ盛りの時に親父を見たとき、親父の言うこと・なすこと・考えていることは全部バカに見えた。ところが、自分がハタチを超えて 21 歳になり、少しばかり分別が付くようになると、突然親父が賢くなったように見えた。

これは、お父さんが変わったんじゃないんです。お父さんはずっと一緒。でも、お父さんを判断している自分が、世間知らずの 14 歳・中 2 病・反抗期真っ盛りの時と、ハタチを超えて分別が付いた時では変わった。つまり、お父さんが成長しているんじゃない。お父さんは一緒。自分がまともになるにつれて、お父さんがまともに見えて来たということです。でも、自分自身が基準になっていると、お父さんの方が成長したように見えるんです。

自分が愚かしい時に父を見たら、父が愚か者に見えました。  
自分が成長するにしたがって、父がまともに見え始めました。  
それは、父が変わったんじゃなく、自分が多少なりともマシになって行ったからにすぎないんです。

これと同じことを人はやります。自分の思い通りにならなかった時、“神がおるんやったら、なぜこんな素晴らしい私のアイデアが通らないんだ？” “神なんかいるもんか。もしいたとしたら頭悪いと違うか？” “なぜ人生が思い通りにならない？” “思い通りにさせない神は頭悪いんじゃないの？”

これは、神よりも自分の方が賢いという態度です。神を裁くことができるほどまで、自分の方が絶対者の立場に立っているということです。神をも裁く。自分を世界の中心に据え、自分自身を絶対基準としている考え方が“罪”といわれているもの。自己中心ですね。

この考え方に立つ以上、人生はストレスばかりです。なぜなら、思い通りにならないから。  
“世界の中で賢いのは私だけで、あと全員愚か者。愚か者だから私の期待に応えようとしな。この世はなんとバカな世界だ！” 最後まで思い通りになりませんから潰れます。  
しかし、自分の思い通りよりもっと素晴らしいのは、神の御心が成ることです。  
なぜなら、神は私よりも賢く・偉大で・パーフェクトだからです。

パウロの個人的願いとしては“この病気が治りますように”ということでした。  
しかし、3 度祈っても治らなかった時、“神の考えの中に、私の思い通りのこと以上のもっと素晴らしいことがあるので、神はそれを許しておられる。神は私に最善のことをなしておられる。

私の目から見て思い通りでない時でさえも、神の最善は私の人生の中で実現して行っているんだ”という解釈/見方が、彼を潰れない人にしたんです。

上手くいかない時に“見捨てられた”と考えたら、どんな人でもしょんぼりしますよね。  
上手くいかない時、“実は神の目には上手く行っている”と考えたらどうですか？  
全知全能の神様には間違いがないのだ、と言っているのです。

潰れない人生の秘訣 3) 完璧主義を放棄する。完璧主義・完全主義。

日本人の素晴らしい徳性の1つは、任された仕事を完璧にこなそうとしますでしょ。特に製造業で。家内は物を買う時、メイドインジャパンかどうかにもものすごくこだわるんです。国産。職人たちの技というか、素晴らしいと思います。いい加減なことしませんからね。

仕事を完全に仕上げることそのものは良いことです。仕事を完璧に仕上げようとするそのものは、何も非難されるものではない。むしろ、褒められるべきことですよ。素晴らしいことです。もう少し正確に言うと、任された仕事を完璧にするのではなく、完璧に近づけようとするのは素晴らしいことです。本当の完璧って出来ませんから。人間やから。でも、自分ができる精一杯・ベストを尽くすというのは素晴らしいことやと思いますね。

だけど、完璧主義はそういうことじゃないんです。完全にしようとするそのものではなく、完全にしようとする心の動機を問うている。なぜ完璧にしようとするのか？  
完璧でないと、私の仲間も世間も社会も私を受け入れてくれない、という恐れがあるからです。私が完全なら仲間として受け入れてくれる。私が完璧なら人間として認めてくれる。私が完璧なら人として重んじてくれる。尊敬してくれる。だから、完全でなかったら、私は受け入れてもらえない。

完全にすることそのものに喜びや楽しみを感じているのではなく、完全であろう・完全にしようとする心にある動機は“恐怖”です。恐れに駆り立てられて、完全になろう。完全な人になろう。だけど、完全にできてるなと思えている時はいいけど、完全じゃない時も多いですね。その時、完全じゃないと受け入れてもらえない、愛してもらえない、愛されないと思ったら、失敗が立て込んだ時に立ち上がる勇気がなくなります。燃え尽きてしまうんです。

人間ですから完全・完璧…、完璧だと思っても、よりレベルの高い人から見たら、完璧じゃないこともあるんじゃないですか？ その時、完全じゃない自分を赦し・受け入れ・穏やかに自分自身を受容する秘訣はどこにあるのか？

9. しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」

弱さは、言葉を変えると不完全ということですよ。

神様の力は不完全さに働くんです。神様の恵みは不完全な人に働くんです。

もし人が神無しで完全なら、神は恵みを施したいと思っても、施す余地がもうないということです。弱いところに神様の恵みが働き、弱いところに神様の力が働き、出来てないところに神様の補いがあり、ダメダメなところに神様の赦しと逆転劇が働く。

自分は精一杯やるけど、でも出来てない。出来てないとしても、そこに神の恵みが働くと思ったら、出来てないことが、落ち込みの理由ではなく喜びの理由に変わるんじゃないでしょうか？  
こんなにでけへんかった。だから期待できるぞ。神様の恵みと力が、私のその弱さに流れ込んで来る。これ、福音と思いませんか？

私も色んなものを提供し、書いたり・考えたり・発信したりしますが、終わるとちょっと落ち込みますよ。「あ～、言い足らなかった…/間違った…/ここは駄目だった…。」  
でも、しばらくしたら、すぐに立ち直るんです。「ということは、そこに恵みが働くぞ。」  
それが楽しみです。私の人生は私だけで完成するものではなく、神の恵みがあって初めて意味を持つものとなり、実を結ぶものとなるのです。

神があなたの人生を手伝って 完成して下さるとするなら、こんなに頼もしいことはないんじゃないでしょうか？ この恵みは弱さを認めるところに働くのです。自分の不完全を認めるところに神の恵みが入り込んで、そこに働くんですね。

「神よ、私は自分で自分を支えることができず、自分で自分の過去の罪を消すことができず、自分の能力であなたを正しく知ることができず、自分で自分の命を永遠に延ばすこともできない。私はあなたから離れた罪人で、助けを必要としています。」  
自分の弱さを認めるなら、罪人だと自覚しているそのところに、神の赦しの恵みが注がれるのです。

そのような罪人のためにこそ、イエス・キリストが十字架に掛かって、身代わりに罰を受けてくださったのです。あなたの全ての罪を負って、神の前にご自分の命で償いを果たしていただきました。そして墓に葬られ、3日目によみがえってくださった方は死をも克服した方で、この方には不可能は何もありません。

その何でもできる方が「さあ、わたしのところに来て、父のもとに帰ろう。そしてキリストの恵みによって、祝福のただ中を生きる人生を共に生きようではないか」と招いてくださっているんですね。

私たちは強い人にならなくていいのです。最も強い方によって、弱いのに強くされたサンプルになればいいんです。偉大な人になれなくてもいいです。最も偉大な方の恵みによって、小さいのにこんなに幸せになった というサンプルになればいいです。

どんな人も、恵みの神様の前には可能性がある。無から有を造られた方/神様は、弱い者を用いて偉大な神の力を現すことを、何よりも喜びとされるんですね。

いかがでしょう。イエス・キリストによって、この神の前に帰ろうではありませんか。是非そうしてください。救われます。神があなたを新しくして下さいます。

心からお勧めし、メッセージを終えたいと思います。



\* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

\* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約 15 分) もぜひどうぞ。YouTube もあります。

\* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi